

NRU 国労せんだい

NO. 2463
2006年3月30日
発行責任者 太田博二
編集責任者 五十嵐敬

第百十七回定期地方委員会

国労仙台地方本部は、二月十八日に国労会館において百十七回定期地方委員会を開催しました。討論の始めには、仙台市水道検針員ユニオンからの闘いの報告もありました。討論では、十五名からの活発な発言があり、これまでの経過報告と、当面する闘いについて意思統一をしました。



委員会は橋本副委員長の「昨年第六十回定期大会を開催し、私達の諸課題の前進に向けて方針確立し運動を展開してきました。採用差別事件の早期解決、06春闘の前進、労働条件改善の闘い、組織強化拡大の闘い等々私達の前には数多くの課題が山積みしています、それら前進に向け活発な討論により本委員会が確固たる意思統一と当面する方針が確立されることをお願いします。」の挨拶で始まり、議長には、山田芳夫委員（岩



りました。委員会は橋本副委員長の「昨年第六十回定期大会を開催し、私達の諸課題の前進に向けて方針確立し運動を展開してきました。採用差別事件の早期解決、06春闘の前進、労働条件改善の闘い、組織強化拡大の闘い等々私達の前には数多くの課題が山積みしています、それら前進に向け活発な討論により本委員会が確固たる意思統一と当面する方針が確立されることをお願いします。」の挨拶で始まり、議長には、山田芳夫委員（岩

沼駅連分会）が選出されました。委員長あいさつ（要旨）



「二十年目の節目、この難局を克服して二・一六中央集会を成功させた、スタートに過ぎないが対機構、物販、DRL基金等課題がたくさんある。中央に運動しての北海道集会に地方本部から二名の参加者を送っている、1日も早い解決が求められている。昇進差別事件の和解、求めたものからすれば大変不十分であるのは間違いない、失望感もあったのも理解し

ている。しかし、この和解を活かすも殺すも自分達の取り組み・闘いに掛かっている。JR貨物等への影響も及ぼすのは間違いない、気運を盛り上げていきたい。春闘、景気が良くなっているといわれている、ベアスアップの要求で足並みも揃えつつある。今回は是非勝ち取るために頑張りたい。格差の問題、是正する取り組み、流動的な雇用状況、女性の七割から八割が非正規労働者となつてい、歯止めを掛けなければならぬ。職場の問題、安全の問題、重大な事故の発生、犠牲も大きく出ている。問題意識安全への取り組みを具体的に進めていく」

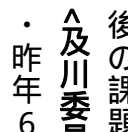
発言（要旨）

△江刺家委員
昇進試験の取り組み、昨年の和解、試験を公正公平

に行つたこと、今後とも多くの組合員に受験していただき、チェックすることが必要。出向配転、配属差別等、四十事件の和解では、該当者の状況、運転士への復帰問題、秋田からの強制配転、それなりの経過措置がある、糸口を必ず付けるという決意を。憲法改正反対の取り組みとして九条の会へ加入を。



△舟濤委員
故、根水豊氏の遺族に対する援護資金では皆さんの御協力をお願いいたします。分会運動として毎月第一水曜日の拡大班会議、次回の記念大会に向けた取り組み、機関紙「ろばた」の年間五十号の取り組み（五年連続東日本本部表彰）、九条の会へ参加を。



△中鉢委員
春闘の行動に向け全体集会の開催、職場要求作りと現場長交渉を具体的に計画、しかし、会社は組合としては出来ない、と今までの姿勢、なかなか改善されない、団交と合わせ職協と連携強化を。強制配転教育訓練不足の問題、安全な車両を提供できるのか疑問もある。



△吉田委員
地本や共闘の指示・要請は、取り組んだ結果が「ゼロ」でも垂れ流しや廃棄処分としないよう点検をしている。採用差別事件の闘いに対する愚痴もあるが、毎月一単組オルグや連

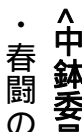
社民党宮城県連
本田県会議員
共産党宮城県委員会
福島仙台市会議員
宮城県平和労組会議
宮城県交運労協
星 議長
国労議員団
石川仙台市会議員

来賓

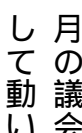
社民党宮城県連
本田県会議員
共産党宮城県委員会
福島仙台市会議員
宮城県平和労組会議
宮城県交運労協
星 議長
国労議員団
石川仙台市会議員



△小瀬川委員
バスの職場では、規制緩和により競争の激化、年々悪化する労働条件、準備時間の短縮、折り返し



△金野委員
一月二十五日に分回大会を開催、私達の職場では、これまで「人事交流」



と称した不当な配転、何か些細なミスや苦情などがあれば、乗務外しの日勤、戒告や減給といった予想以上に重い処分が出されてもいる。仙石線は少ない折り返しの時間では明け番で退勤まで食事することも出来ない状況。

時間の短縮、拘束時間の長期化、慢性的な要員不足で休日出勤も強いられている現状。若いプロパー社員の中には、不平不満も持つており、声を掛けられるように地道に組織拡大に向けて頑張りたい。

▲高木委員▼

・十一月一日突然仲間が国労脱退、通勤条件希望地を餌に考えろといった状況、十二月に郡山運輸区の設置分会組織が六十九名、班体制の役割が重要になってきている。四月十五日に第六回春闘四分交流会を開催していく。

▲小檜山委員▼

・昇進試験、九名受験して三名が合格、制度自体の問題、可否よっての不団結の要素、自動昇格制度の要求。事故の多発、冬期体制パートナー会社十二月休日買い上げと百時間超える超勤。

▲八木沼委員▼

・羽越線の事故以来規制が下げられた、白石―藤田間今での七倍列車が止まっている。客からどうなっているんだと怒鳴られる、大変な目に遭っている。いくら風規制といっても、いきなり全部が下げられては大変。対策として一律はおかしい、やるにしても会社のキャン

ペーンとかで、社会的に周知すべきである。出改札の融合化、新入社員含めて知識の薄い人が多くなっている。後方もおかない、休憩している人を当てにしての職場実態。

▲阿部委員▼

・事故以来原則線閉五件、線閉を出しても入らない、件数を上げて貰いたい。冬期で中山平から川渡だが風や雪で西古川まで除雪、メンテナンス合理化の問題。今後の大崎地区の選挙は。

▲大越委員▼

・五十五才で賃金二十%カット、五十五才以上の組合費の減額を要請したい。

▲六戸委員▼

・昨日第二十九回分回大会を開催、伯備線での職者死亡事故、外注での一輪車の事故、事故防止安全教育が特休公休無しでこなれた。

▲土田委員▼

・乗務員に対し、不意を狙ったような常務指導、秋田からの配転、長期単身赴任問題解消に努力を。



期地方委員会

集約答弁

健全で正常な労使関係の確立に向けた取組みについて、昇進試験対策「出向・配転事件」にかかわる要請等、悩みや問題、今後の課題について5名の委員の発言で触れている。昇進試験の具体的な対策について、助役試験まで差別是正を求めていくのか、その取組みをするのか主任が増えることで仕事の扱い、助役試験になった場合の対応。秋田希望者の取組み。

書記長集約

「柔道大会について」

宮城県支部仙台駅連分会 鈴木 稔



の出場拒否をされた理由

昨年、3年ぶりの仙台支社柔道大会に参加することができました。なぜ3年ぶりか、それは、4年前の支社柔道大会で個人戦で優勝したときに「おまえが優勝したからあおばにも載せられない」と言われたが、そのときは何を言っているのかよく理解できなかった。しかし、翌年に出場の申し込みをしたら、大会への出場拒否をされた理由

を聞けば「国労だから」と組合差別をされました。その時は怒りを通り越して少しあきれてしまいました。次の年も出場申し込みをしたら出場拒否をされました。理由については昨年と同様でした。組合が違うということ、スポーツ大会にまで介入してくる東労組、指導しない会社の姿勢は、断じて許すことはできない、そこで、昨年の柔道大会には組合の仲間や地本の役員と相談して、柔道の経験者数人をお願いをして、柔道大会への参加申し込みをしてもらいました。会社側と地本の役員とで何度か話し合い

が必要、また周りの状況を見ながら対応したい、配転の関係では申し立て者を基本的に類似する問題を和解協議で、さらにそれ以外については支社段階での労使関係改善を通して解決を進めていく。全体的に、組織運動としていくことが問われる。

2・18北海道総決起集会

2・18北海道総決起集会が北海道教育会館において開催されました。

・この集会は北海道平和フォーラムなどの主催のもと、国労、建交労の闘争団員当事者のみならず国労本部、建交労中央本部、全労連の連帯。社民党、共産党、民主党、新社会党の賛同。各共闘の支援のもと、文字通り解決をするための総団結の場になりました。



・仙台からも武田特執、仙総支部鈴木執行委員の2名が参加しました。

集会では主催者、連帯の挨拶後、記念講演が行われ、『マスコミから見た国鉄闘争』と題し、新聞記者の橋井潤氏より分割・民営化の過程、地労委闘争から今日まで、自分が記者として関わって見てきた労働者の実態や運動のあり方を叱咤激励を交え話がされました。

・最後に国労、全動労争議団からそれぞれ決意表明が行われ、家族からアピールが読み上げられ全体の拍手で採択後、団結ガンバロウを突き上げ今年こそ解決させることを確認し終了しました。

・集会後の国労北海道との交流会では、昇進和解を最大限に生かし、平成採用者の拡大を何としても勝ち取り、不採用問題の解決に力にしたいと仙台からも決意が述べ、全体で解決に向け奮闘することが確認されました。